

「世界を変えよう基金」報告書

団体名：インドワークキャンプ団体 namaste!つくば支部

活動内容：インドのハンセン病コロニーにおいてワークキャンプ活動を実施し、回復者の社会的尊厳の回復と経済的自立を促進すること

活動期間：【マニプールコロニー】2018/2/16～3/10

【チャクドラコロニー】2018/3/12～3/29

【ビシュナプールコロニー】2018/3/10～3/31

プログラムの実施に至った経緯と目的

私たちはインド国内のハンセン病回復者とその家族に対する差別解決を目的として活動しています。ハンセン病コロニーの人々は差別が原因で進級・進学が難しく、定職に就くことができないために、物乞いで生計を立てている人も少なくありません。そのため最低限度の生活環境が保障されず、その状況がコロニー外の人からの差別を更に助長させるという悪循環に陥っています。私たちはワークキャンプを実施することでコロニーの生活環境を改善するとともに、外部の人が抱く差別意識の解消を目指しています。

2018 春キャンプ活動報告

私たちは2018年の春に、3つの活動地でワークキャンプを実施しました。活動地はインド西ベンガル州のビシュナプールコロニー、マニプールコロニー、チャクドラコロニーです。ビシュナプールコロニーでは、雨風も十分に凌げないような屋根の張替えや家屋の修繕を行いました。また進学意欲があるものの経済的状況から大学進級が困難な学生に対し奨学金を貸与するプロジェクトを継続して行いました。

マニプールコロニーでは、生活環境や差別問題の現状について調査しました。そしてニーズとして挙げられた、雨天時に浸水してしまう道路の整備や適切に処理されていないゴミの撤去等のワークを行いました。

チャクドラコロニーでは、これまで継続して活動を続けてきた前述のコロニーと異なり、今回初めてワークキャンプを行いました。今後活動する上で必要となる村の基本情報や村人が抱えるニーズを調査しました。

これらの活動は、村人が自ら自分の村を良くする「主体性」と、今後、他者からの援助に頼るだけでなく、自身で生活の質を向上させていく「持続性」を意識し、村人と協働で実施しました。

活動を通じて得た成果や喜び

ハンセン病コロニーに滞在し村人との日々の交流を通して、支援者と被支援者という関係を超え、お互いを名前呼び合うような、一対一の対等な関係を築くことができました。また、慣れない土地で共同生活を送る中で日本人キャンパー同士で協力しあい、活動の目的を達成する喜びを分かち合うことができました。

プログラムの達成状況

ビシュナプールコロニーでは村人と協力し家屋修繕を実行することができました。またワーク後に住民に対して行ったリサーチでは、居住環境が改善された結果、生活の質が向上したという声を確認することができました。

マニプールコロニーでも同様に村人と協働でワークを実施しました。道路を整備することによって手足に後遺症があり歩行が困難な回復者も安全に歩くことができるようになりました。

チャクドラコロニーでは実施したリサーチの結果を踏まえて今後の活動の指針を定めることができました。また、活動をする上で重要となる、村人との良好な関係を構築することができました。

このように満足のいく成果が得られた要因としては、渡航前の準備が十分だったことや事前のリサーチ結果を踏まえた活動内容であったことが挙げられます。加えて、村人とこれまで築いてきた信頼関係により多くの協力が得られたことも要因の一つとして挙げられます。

今後の抱負

この一年間で団体の所属キャンパーやインドでの活動地が増え、国内と国外双方において活動の幅が広がりました。新たな課題への着手とともに以前から取り組んできた課題の見つめ直しも欠かさず、様々な視点や価値観を共有する中でも目的を見失うことなく活動を続けます。

写真で振り返るワークキャンプ活動の様子



村人を中心に協力して行ったワーク
【ビシュナプールコロニー】



レンガを敷き詰めて行った道路修繕
【マニプールコロニー】



村人とキャンパー間の意見交換
【チャクドラコロニー】



今までの活動の評価や村人のニーズを
引き出すためのリサーチ
【ビシュナプールコロニー】



ヒンドゥー教のお祭り「ホーリー」を
村人と楽しむ
【マニプールコロニー】



コロニー内の小学校の教室を借り、
寝袋と蚊帳を設置して寝るキャンプの様子
【ビシュナプールコロニー】